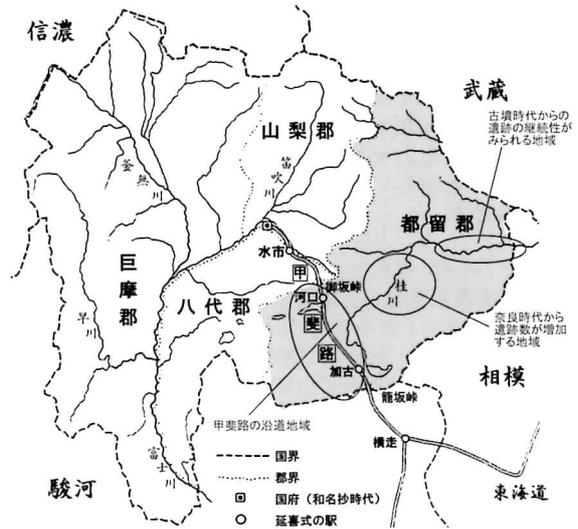


●都留郡に何が起こっていたのか？

奈良・平安時代の遺跡から当時の歴史を探る企画展『古代の都留郡に迫る』の中では、遺跡の発掘調査事例の紹介のほか、文献資料にみえる都留郡についても検討しています。奈良・平安時代の都留郡に関わる文献資料に刻まれた歴史の記述と都留市周辺の遺跡のあり方を結び付け、当時の様子を探っていきます。

都留郡は甲斐国の4つの郡のひとつですが、他の八代郡・巨摩(摩)郡・山梨郡とは歴史的な道のりが異なるようです。特にその重要な鍵を握るのが都留市内の遺跡のあり方です。都留市の歴史の中で、弥生時代の後期から古墳時代にかけては、いわば「歴史の空白」となっていますが、律令制が成立した後、奈良時代から再び遺跡がみられるようになります。大月市や上野原市といった桂川の下流域では古墳時代にも人々が生活を営んでいたことが確認されています。また甲斐国が成立した後、現在の笛吹市に存在したと推定されている甲斐国府(国の中心地)から東海道に通じる官道・甲斐路(御坂路)が富士山北麓(桂川上流域)に設けられ、富士河口湖町・富士吉田市・忍野村などは、その経由地であったと考えられています。桂川下流域の古墳時代からの勢力圏と富士山麓の官道の経由地に挟まれた中間的な位置に都留市が存在します。都留市内に遺跡がみられるようになる奈良時代は、まさにこの両者が結ばれたことを意味しています。都留郡が大きひとつのエリアとして成り立つとともに、甲斐国の枠組みが整ったとも考えられます。この過程で、相模国に接する都留郡において、甲斐国と相模国が国境を争っていた記録など興味深い資料も紹介します。

皆さんも、本企画展を通じて郷土の古代史に迫ってみてはいかがでしょうか。



会 期	2月26日(日)まで
開館時間	午前9時～午後4時30分(入館は4時まで)
観 覧 料	一般 300円(210円) 高・大学生 200円(140円) 小・中学生 100円(70円) ()内は20名以上の団体料金です。
休 館 日	月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館し翌日が休館)、第三火曜日、祝祭日の翌日
※分館「増田誠美術館」と共通券です。	

●会期中のイベント

ミュージアム・ミニコンサート

「三味線発表会 ―城下町に響くお囃子―」

三味線教室に参加している方々の演奏をお楽しみください。

日 時 2月26日(日) 午後2時～

場 所 ミュージアム都留 エントランスホール

問合先 ミュージアム都留 ☎(45)8008

増田誠美術館からのお知らせ

油彩画展「増田誠 四季を描く～冬」

当館に収蔵されている増田誠画伯の作品の中から、「冬」を描いた作品を中心に展示します。

雪降るパリや冠雪の富士山など、増田画伯の感性がとらえた「冬」の情景をお楽しみください。

会 期 2月4日(土)～4月16日(日)まで

会 場 ふるさと会館2階 増田誠美術館



「お経塚の富士」 1989年